

鉄道の廃線を活かした

エコプロジェクトで町おもしろ

飛驒市の

レールマウンテンバイクが 東北の被災地で大活躍

飛驒市のNPO法人、神岡・町づく
りネットワークのレールマウンテン
バイク「がったんゴー」をぜひ東日本大
震災復旧作業の現場に」という依頼
が、3・11の大津波で被害を受けた三
陸鉄道・北リアス線の長いトンネル内
で通信回線の復旧工事に携わる業者か
ら届いたのが昨年末。その声に応えて、



岩手県小本トンネル内

「復興の一助に」と、今年1月から
3月まで2台が貸し出され、工事作業
員の足としてフル活用された。同法人
のスタッフも現地に同行、「少しでも
復旧のお役にたてたのがうれしい」と
喜んでいる。レールマウンテンバイク
が東北の震災の現場で活躍するに至っ
た経緯について、応援に駆け付けた同
NPO法人の事務局スタッフ田口由加
子さんは、「通常、鉄道法により、鉄
道レール上を動力の付いた乗り物を動
かすにはそれなりの資格を持った人が
必要です。しかし震災の現場では復旧
の為にたくさんの人が必要だが多数の資
格者はいないため、レール上を人力で
走行するレールマウンテンバイクが着
目され、貸し出すことになりました。」
と語った。「当時は鉄道線路が不通の
為トンネルの入り口は電車車両の車庫
となっており、レールマウンテンバイ
クを解体してやっとトンネル内に運び
込むことができ、それから作業に当た
りました。」との苦労話も。

廃線から 新たな観光スポットへ



岐阜県最北端の飛驒市神岡町は、今
でこそ小柴昌俊教授のノーベル賞受賞
理由となったニュートリノ実験の行わ
れたカミオカンデや、スーパーカミオ
カンデで知られるが、以前は鉱山の
町として永年繁栄した。鉱山からの
貨物を運ぶため馬車軌道が明治末か
ら存在し、昭和初期以降のガソリン

機関車を経て、昭和41年に国鉄・神
岡線が誕生。昭和59年の国鉄の民営
化後は第三セクターとして再出発し
たが、平成18年ついに廃線となった。





その際には数多くの鉄道ファンが全国から訪れたという。

鉄道は廃線となると、通常、レールやトンネルは撤去される。しかし雪深い鉱山の町を支えた旧神鉄の面影を惜しむ人々の熱意と努力で、「乗って楽しい乗り物を走らせることで生まれ変わらせよう！」とレールマウンテンバイクを開発した。試行錯誤を経て現在では利用者数も、開業の平成19年の1,301人から平成23年の11,718人へと大幅に増加。テレビ・新聞・雑誌などにもひんぱんに取り上げられ、以前は閑散とした田舎町が一躍脚光を浴びることとなる。昨年は利用客の6割以上が、奥飛騨温泉郷や飛騨高山といった近隣の観光地に宿泊し、地元の飲食店を利用するなど、地域経済にも大きな波及効果をもたらしている。日本全国に多々ある鉄道の廃線問題へ、「廃線イコール撤去」ではなく、町おこしにもつながる新しい「鉄道」の楽しみ方を提案しているようだ。

旧神岡鉄道の奥飛騨温泉口駅から神岡鉱山駅までの2.9km区間の往復5.8kmのコース内には、真っ暗なトンネルや、山あいの鉱山の町・神岡を一望できる眺めの良い高架、桜並木や緑豊かな清流高原川の渓谷などがあり、春は桜、初夏にはマーガレット、秋には紅葉…と四季折々の豊かな自然が満喫できる。

レールマウンテンバイクは、市販のマウンテンバイクを特製フレームに固定させ、レール上をスムーズに走行できる乗り物だ。自転車の後輪が直にレールに接地し、フレームの形状が列車の車輪を模しているため、レール継ぎ目で「ガッタンゴットン」という本物の列車さながらの音と振動を体感できるのが好評だ。二人



乗りのバイクの他に、小さい子ども

連れの家族や、普

段は自転車に乗れ

ない障がい者も利

用しやすい観覧シ

ートやベンチシー

ト、トロッコなど

の補助席つぎのも

もある。今後は、

タンDEM自転車や、

フレームにサイド

カー形式の補助席

を組み合わせるな

ど、新しいタイプ

の自転車の導入も

企画中とのこと。

地域の活性化へと

夢は広がっている。

(構成・荒垣さやこ)

地域振興プロジェクトのご紹介

「ギフネット」広報委員会では東京とふるさと岐阜の紐帯をより深め、確かなものとしてゆくお手伝いとして、この「レール・マウンテンバイク」事業のような、県下各市町村で独自の視点から展開されている「地域振興事業」をご紹介します。次号のテーマとして取材を受けてもよいという関係機関の方は是非一報下さい。

担当 ギフネット広報委員 荒垣さやこ

東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館14F

岐阜県東京事務所内 東京岐阜県人会「ギフネット」係

